

日本人大学生を対象とした防衛的悲観主義尺度 (Japanese Defensive Pessimism Inventory)の作成

荒木 友希子
(金沢大学文学部)

【 目的 】

Norem & Cantor (1986) は、学業達成場面において以下の3つの特徴を持つ学生の存在を指摘し、防衛的悲観主義の概念を提唱した。

①過去の学業成績が優れているにもかかわらず、学業達成場面において常に非現実的に低い期待しか持たない。②失敗や最悪の事態を想定してあれこれ考え込み、不安が高い。③その一方で優れた成績を維持している。

この概念は失敗によって自尊心が傷つくのを防衛するための認知的対処方略として説明される。自己高揚動機に基づくセルフハンディキャップ方略を用いる場合は失敗を回避するために意図的に努力を差し控えるが、防衛的悲観主義方略の場合は努力を放棄せず高い不安を動因として努力を動機づけている。また、高い不安によって成績が妨害されるテスト不安と異なり、実際に望ましい結果を得ている。

元来、悲観的な思考や態度は、精神的健康に対して否定的な影響を与えるものとして認識されている。しかし、Norem はこの防衛的悲観主義を肯定的なものとして捉えている点が大きな特徴であり、個人にとって最適な認知的対処方略を採用することがその人にとって最も適応的であることを実験的手法によって証明している (Norem & Illingworth, 1993)。

日本では、岩永・横山(2004)、細越・小玉(2003, 2004)などが大学生を対象に防衛的悲観主義に関する研究を行っている。しかし防衛的悲観主義者と真の悲観主義者とを弁別する手法の妥当性に問題があると思われる。そこで本研究では、日本人大学生に適用可能な信頼性と妥当性の高い防衛的悲観主義を測定する尺度を新たに作成することをめざした。

【 方法 】

◆項目の作成と検討

本研究では、防衛的悲観主義の構成概念を以下の特徴をもつ概念であると定義した。まず行動面の特徴として、(1)過去に似たような状況で良い結果をおさめていること (2)これから行うことに対して入念に

準備し努力すること、がある。これらは方略的楽観主義と共通した特徴である。認知面の特徴として、起こりうる可能性のある(3)失敗・(4)成功の両方について、あれこれ考え込んで広く熟考したり、心の中で何度も練習をしたりすることがある。これは防衛的悲観主義が認知的方略であることを示す最も際立った特徴である。また、真の悲観主義と共通する特徴として、(5)不安が非常に高いこと、(6)これから行うことに対して非現実的に低い期待しか持たないこと、がある。これら6つの特徴に該当すると思われる項目を6つずつ計 36 項目作成した。

上記の項目群について、心理学を専門とする研究者および大学院生 5 名に対して個別調査を実施し、概念的定義との対応、質問用紙における教示文や表現の不自然さについての確認をおこなった。その後、大学生 94 名(男性 29 名、女性 62 名、不明 3 名; 平均年齢 19.97 歳)について集団調査を実施した。心理学の講義時間中に質問紙を配布し、その場で回答を依頼し、回収した。その結果、全体の分布、回答の偏りなどの分析に基づいて、主に日本語表現の検討をおこない、防衛的悲観主義尺度 (Japanese Defensive Pessimism Inventory) の原型となる計 36 項目を作成した。項目に対する回答は6件法とした。

◆手続き

調査協力者は、地方の国立大学に在籍する日本人大学生 1~4 年生の 729 名。無記名方式による集団実施をおこなった。心理学の講義時間中に質問紙を配布し、本調査研究についてのインフォームドコンセントをおこなった。調査への協力に同意した場合にはその場での回答を依頼し、回収した。回答に要した時間はおよそ 10~15 分であった。

【 結果と考察 】

記入もれのあった 34 名のデータを除外し、695 名(男性 383 名、女性 306 名、不明 6 名; 平均年齢 19.64 歳、範囲 18~35 歳)を分析対象とした。

まず回答の偏りを防ぐために、質問項目に対して否定の回答(評定1から3)あるいは肯定の回答(評定4

Table 1. 因子パターン

質問内容	因子 I	因子 II	因子 III	因子 IV	共通性	
I. 悲観						
6 試験の当日に起こりうるトラブルについて想像し、あれこれ考える	0.48	0.09	-0.04	0.30	0.31	
8 試験はうまくいかない気がする	0.66	-0.10	-0.16	-0.10	0.56	
9 試験に失敗したら一体どうなってしまうだろうかとよく考える	0.74	-0.02	0.07	0.01	0.56	
16 試験がもうすぐだと思うと、緊張して身体がこわばる	0.53	-0.02	-0.10	0.22	0.33	
23 この試験で自分の目標を達成できないかもしれないのではないかと心配になる	0.76	0.02	0.01	-0.02	0.56	
27 試験の成績が悪かったらどんなに落ち込むだろうかとよく想像する	0.75	-0.04	0.13	0.01	0.59	
28 この試験のときに何かよくないことが起こりそうで心配になる	0.74	0.06	-0.05	0.05	0.52	
31 この試験に失敗したら今後の進路にどのくらい影響するのか、よく考える	0.59	0.06	0.18	0.14	0.41	
32 大丈夫だと分かっている、最悪の結果を想像してしまう	0.81	0.04	-0.02	-0.06	0.65	
33 試験問題に目を通したとき、まったく分からない問題がたくさんあって茫然としている自分の様子が心に浮かぶ	0.64	0.00	0.01	-0.24	0.47	
35 試験に失敗したときのことはよくよく考えない	-0.46	0.09	0.02	-0.10	0.25	
36 私がこの試験で良い結果を残すのは難しいだろう	0.45	-0.24	-0.05	-0.28	0.49	
II. 過去の成績						
7 この試験と似たような状況で成功したことがある	0.04	0.59	0.08	0.05	0.40	
13 私は重要な試験では失敗したことがない	0.03	0.71	-0.10	-0.15	0.40	
18 今までは、このような試験では良い結果だったことが多い	-0.03	0.88	-0.01	-0.06	0.74	
34 これまでの試験では、たいいてい優れた成績をおさめてきた	-0.08	0.75	0.02	0.01	0.62	
III. 成功熟考						
2 試験がうまくいく様子を想像し、あれこれ考える	-0.13	-0.02	0.70	0.02	0.50	
4 試験で良い成績をとることができたらどんな気持ちになるだろうかとよく想像する	0.17	-0.07	0.74	-0.04	0.52	
12 試験に成功したときのことはあまり想像しない	0.24	0.13	-0.74	0.01	0.54	
21 この試験で大きな成功をおさめる可能性がどのくらいあるか、よく考える	0.24	0.14	0.55	-0.02	0.39	
22 何のトラブルもなく試験会場にたどり着けた自分の様子が心に浮かぶ	0.03	0.08	0.53	-0.04	0.29	
IV. 努力						
14 失敗したときのことを考えると、自分はそうならないように入念に準備する	0.22	0.03	0.06	0.61	0.47	
19 かなり前から十分時間をかけて試験の対策を練る	0.06	0.01	-0.07	0.75	0.54	
30 試験のために一生懸命努力するのは好きではない	0.07	0.18	0.04	-0.69	0.39	
	寄与	5.50	3.30	2.82	2.46	14.08

Table 2. 各下位尺度の基礎統計量

下位尺度	平均値	標準偏差	歪度	尖度	α 係数	相関係数			
						悲観	過去の成績	成功熟考	努力
悲観	39.80	11.41	0.07	-0.35	0.89	-			
過去の成績	14.64	4.20	0.04	0.02	0.81	-0.28 **	-		
成功熟考	17.66	5.25	-0.02	-0.36	0.77	0.00	0.25 **	-	
努力	11.43	3.22	-0.22	-0.19	0.71	0.10 **	0.20 **	0.29 **	-

** p<.01

から6)のいずれかに全回答の70%以上が集中していた6項目を除外した。残った30項目について主因子法による因子分析を行った結果、第4因子までが固有値1以上の値を示しており、4因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度4因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった2項目および複数の因子に重複して.40以上の負荷量を示した4項目を除外し、項目選定をおこなった。採用された24項目について再度因子分析を行った。Promax回転後の最終的な因子パターンをTable 1に示す。

なお、回転前の4因子で24項目の全分散を説明する割合は47.96%であった。

次に逆転項目3つの値について変換し、各下位尺度の基礎統計量を算出した(Table 2)。すべての下位尺度において高い内的一貫性が認められており、得点分布はほぼ正規分布に近いことが示された。この4因子構造を確認するため、確認的因子分析をおこなった結果、4因子モデルの適合度は良好であった(GFI=.900, AGFI=.870, RMSEA=.074)。以上の分析結果から、この24項目からなる尺度は高い信頼性と妥当性を備えていると判断することができる。